

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 キッズさくら		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 9日		～ 令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 9日		～ 令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域の交番や消防署、教会、公園など身近な社会資源を活用した活動を通して、子どもたちが地域の人々と自然に関わる機会を大切にしている。安心できる環境の中で社会性やコミュニケーション力を育み、地域全体で子どもの成長を支える関係づくりを実践している。	子どもの発達段階や特性に合わせた無理のない交流設定。 安全面(移動・環境・緊急時対応)の事前確認と職員間共有。	活動の記録を支援計画に反映し、個別支援の質の向上。 子どもたちの活動の様子を地域へ発信。 地域の方との定期的な交流イベントの開催。
2	同法人内の保育園からの利用が多く、園の保育士との日常的な情報共有が円滑に行える体制がある。園での様子や発達状況を継続的に把握し、支援内容に即時反映できるため、子ども一人ひとりに一貫性のあるきめ細かな支援を提供できている。	子どもの「できたこと」「難しかったこと」を具体的に言語化して共有。 個人情報の取り扱いに配慮した、記録・共有体制。	保育園や関係機関の職員との定期的なケース会議の実施。 相互見学や合同研修による支援スキルの向上。 発達評価やアセスメント結果の共同活用。 ICTを活用した共有フォーマットの整備。 連携内容を個別支援計画の評価・改善に反映。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物構図上、十分な換気が難しく、また大きな窓により外部からの視線が入りやすいためプライバシー確保に課題がある。さらに西日が強く、夏季は室温上昇により冷房効率が低下しやすい環境。	遮光・遮熱設備(遮光フィルム等)の不足。 空調能力と室内容積・日射量バランス不足。 プライバシー保護と採光確保の両立が難しい設備状況。	遮熱・目隠し機能を兼ねた窓用フィルムやロールスクリーンの設置。 西日対策として遮光カーテンの活用。 サーキュレーターや換気扇併用による空気循環の確保。 空調機的能力見直し、または補助的な冷却器の導入検討。 室温・CO2温度の定期測定による環境管理の可視化。
2	送迎が徒歩のため、雨天時に利用児が濡れる可能性がある。また、出入口の外階段が天候により滑りやすく、安全面に配慮が必要な環境。	外階段の素材や勾配により濡れると滑りやすい。 滑り止め設備や排水対策が不十分。 天候に応じた送迎手順の標準化が十分でない。	外階段への滑り止めテープ/ノンスリップマットの設置。 手摺の増設や点検、排水の確保。 天候に応じた送迎時間の調整や保護者への事前連絡。 安全配慮事項の職員間共有と定期的な振り返り。
3	職員の退職が続く時期があり、人員体制の安定化と職員定着の促進が課題となっている。継続的で質の高い支援体制の維持に向け、職場環境のさらなる整備が必要。	業務負担の偏りや多忙感による心身の疲労。 新人職員への支援体制(OJT/相談体制)の不足。 役割や評価基準が分かりにくいことによる不安感。 休暇取得や勤務調整のしづらさ。 専門性向上の機会やキャリアアップの不足。 職員間の情報共有や心理的安全性の不足。	業務の見える化と分担の適正化。 休暇取得の促進とシフトの柔軟化。 新人研修・OJTの体系化の導入。 記録用紙やICT活用による事務負担の軽減。 チーム内の情報共有ルール整備と心理安全性の向上。 退職理由の分析と改善サイクル(PDCA)の運用。